

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質、粉じん等）の結果について（お知らせ）

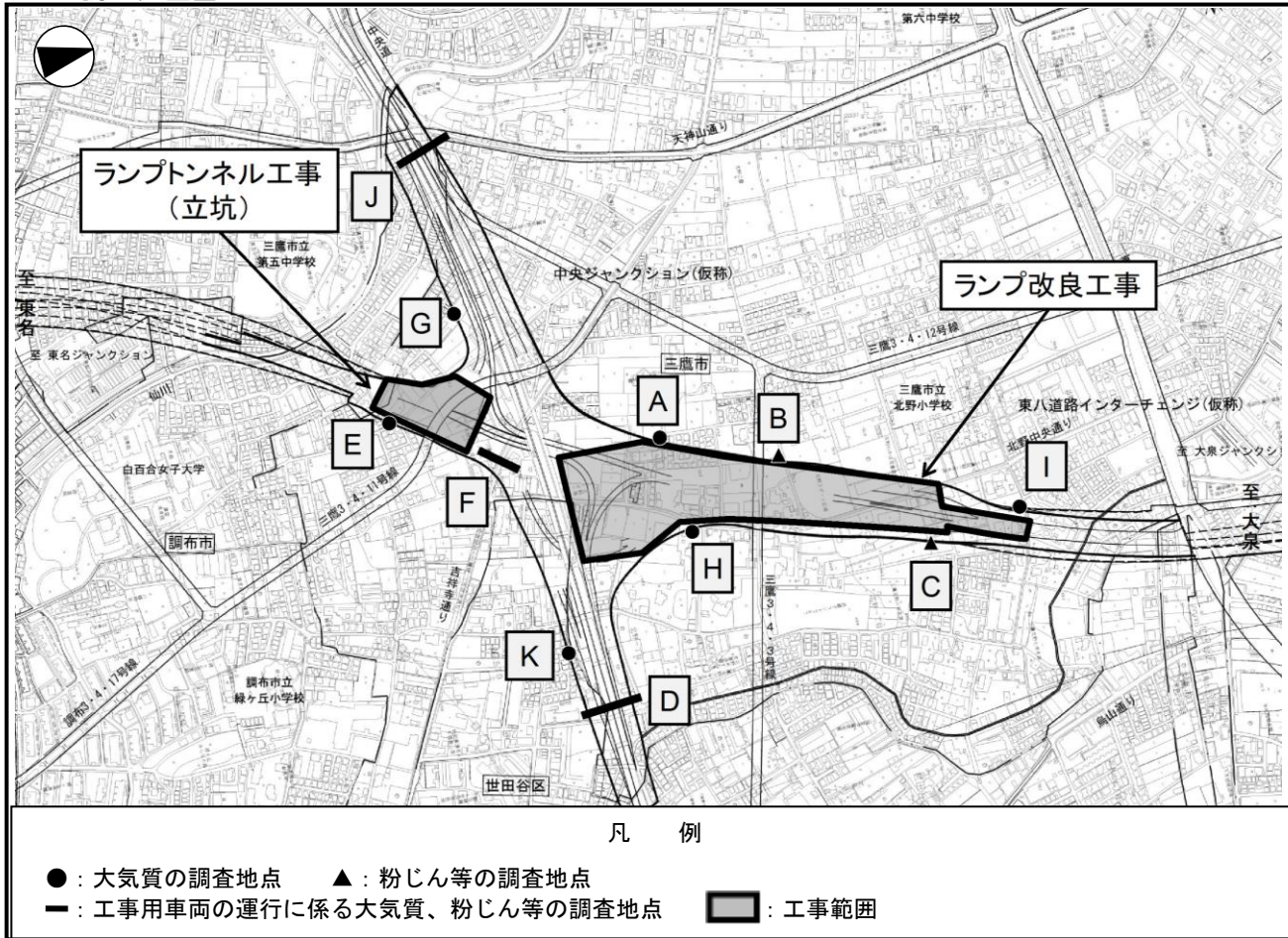
中央 JCT・東八道路 IC（仮称）周辺 大気質、粉じん等調査

秋季（令和 4 年 9 月～令和 4 年 11 月）に実施した大気質、粉じん等調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

- 大気質：令和 4 年 9 月 30 日（金）～10 月 6 日（木）（7 日間）
 令和 4 年 10 月 1 日（土）～10 月 7 日（金）（7 日間）
 令和 4 年 10 月 3 日（月）～10 月 9 日（日）（7 日間）
 令和 4 年 10 月 24 日（月）～10 月 30 日（日）（7 日間）
 令和 4 年 10 月 28 日（金）～11 月 3 日（木）（7 日間）
 令和 4 年 11 月 16 日（水）～11 月 22 日（火）（7 日間）
 粉じん等：令和 4 年 9 月 12 日（月）～10 月 12 日（水）（1 ヶ月間）
 令和 4 年 10 月 24 日（月）～11 月 23 日（水）（1 ヶ月間）
 令和 4 年 10 月 25 日（火）～11 月 24 日（木）（1 ヶ月間）

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
 電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日 9：15～18：00）

◆調査結果

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	B	C
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	秋季	1.9	1.9

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D	F	J
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	秋季	1.4	4.3	1.6

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)】

- 二酸化窒素 (NO₂) については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質 (SPM) については、1 日平均値、1 時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査日	A			調査日	E		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値		1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値
10月1日	0.007	0.016	0.019	9月30日	0.013	0.019	0.026
10月2日	0.007	0.019	0.025	10月1日	0.009	0.016	0.022
10月3日	0.012	0.022	0.029	10月2日	0.008	0.018	0.025
10月4日	0.012	0.020	0.026	10月3日	0.011	0.021	0.026
10月5日	0.010	0.014	0.031	10月4日	0.008	0.019	0.023
10月6日	0.010	0.008	0.012	10月5日	0.013	0.013	0.031
10月7日	0.008	0.006	0.011	10月6日	0.011	0.006	0.010
期間内平均	0.009	0.015	—	期間内平均	0.010	0.016	—

調査日	H			調査日	I		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値		1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値
10月24日	0.009	0.011	0.018	10月24日	0.009	0.010	0.013
10月25日	0.010	0.011	0.019	10月25日	0.008	0.009	0.013
10月26日	0.011	0.011	0.018	10月26日	0.011	0.011	0.032
10月27日	0.023	0.018	0.028	10月27日	0.023	0.016	0.024
10月28日	0.024	0.022	0.039	10月28日	0.021	0.022	0.034
10月29日	0.010	0.017	0.032	10月29日	0.010	0.015	0.029
10月30日	0.014	0.016	0.026	10月30日	0.013	0.013	0.019
期間内平均	0.014	0.015	—	期間内平均	0.014	0.014	—

※ 調査地点 G、K の周辺では、9 月～11 月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素 (NO₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)】

- 二酸化窒素 (NO₂) については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質 (SPM) については、1 日平均値、1 時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査日	D			調査日	F			調査日	J		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値		1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値		1 日平均値	1 日平均値	1 時間値の最大値
10月28日	0.022	0.019	0.027	10月3日	0.015	0.025	0.037	11月16日	0.018	0.011	0.018
10月29日	0.011	0.013	0.025	10月4日	0.012	0.024	0.040	11月17日	0.023	0.014	0.022
10月30日	0.014	0.012	0.020	10月5日	0.015	0.017	0.036	11月18日	0.024	0.018	0.023
10月31日	0.016	0.010	0.014	10月6日	0.015	0.010	0.018	11月19日	0.016	0.019	0.025
11月1日	0.014	0.012	0.016	10月7日	0.014	0.008	0.015	11月20日	0.012	0.021	0.029
11月2日	0.023	0.013	0.024	10月8日	0.018	0.014	0.021	11月21日	0.017	0.010	0.022
11月3日	0.018	0.016	0.028	10月9日	0.009	0.013	0.021	11月22日	0.014	0.013	0.019
期間内平均	0.017	0.014	—	期間内平均	0.014	0.016	—	期間内平均	0.018	0.015	—

参考

◆環境基準

二酸化窒素：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
 （「二酸化窒素に係る環境基準について」（環境庁告示））
 浮遊粒子状物質：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20 mg/m³ 以下であること。
 （「大気の汚染に係る環境基準について」（環境庁告示））
 ※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、低い方から数えて 98% 目（若しくは高い方から数えて 2% 目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km²/月以下
 ※降下ばいじん量に環境基準はありません。環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした 20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」より引用）
 なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を 10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

* 「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」（平成 2 年 7 月 3 日、環大自第 84 号）